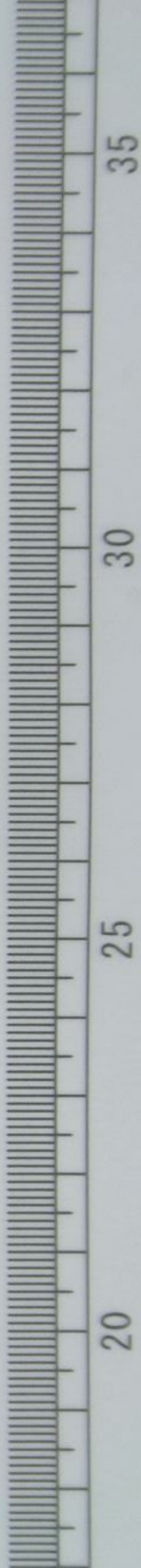




十通至一九九
 停都政名出案請錄粟毛
 上

~~D~~
 1080
 1

逍遙文庫
 文庫 6
 1003
 1



文庫6
1003
11

十返舎一九巻

巖島
多詣 膝

小野

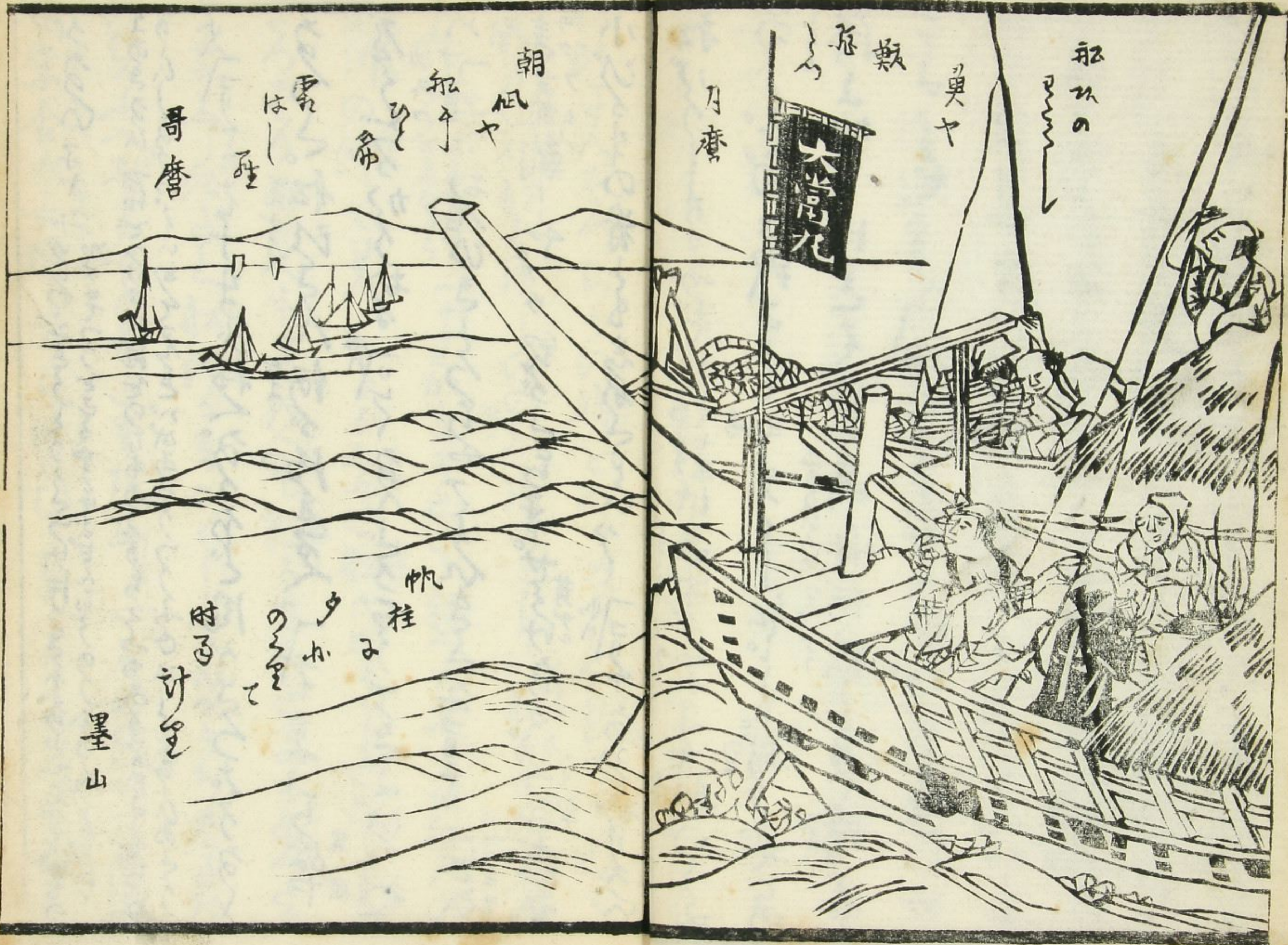
巖島 膝栗毛 卷上

東武

十返舎一九著

東武印

名所の四國七嶋といふる。九龍下津井
の間。くも怪岩寺石も多。古松煙を念
海系日小輝き。船中の壯観。人もさへび
系山。諸。東都の發客。海次。布。ま。八
ある。身。の。志。の。人。乃。其。む。ス。ま。せ。ま。も
か。便。の。あ。る。ま。ど。ら。ど。思。推。して。い。づ。や。巖。州



船の

奥ヤ

船

月磨

大高丸

朝

風

船

糸

雲

雁

哥磨

帆柱

夕

の

計

墨山

さうして〜うれあふのゆへに〜るを信のきの〜

ふしむ〜ける。コリヤ妙みは次第しだいを〜ら〜

え〜。ヤ〜トトよびよまま〜カ〜。あ〜

の。コリヤ〜トトあ〜う〜か〜カ〜

の。ま〜う〜ナニナニま〜あ〜。

えよ〜トトあ〜う〜あ〜か〜の〜あ〜

〜アタ〜コリヤ〜

あ〜ア〜カ〜。

〜アタ〜トトあ〜う〜あ〜の〜あ〜

ちちあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

〜ア〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

〜ア〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

〜ア〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

〜ア〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

〜ア〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

かぐくいす伎術と伎ひ中の境まはよりのふか玉たまも
の伎ひ糸いとのくあまつまんびのあらうよう伎ひ後の白
石いまでともある灘とりあらうとぞ。

あぐかずけもる元ひ日和とて悠あくこと

桂か乃ははくあらうの灘な

頃まあらう踏ふたぶく吹ふ出くく。船ふハ矢

うりもたるやく。浪な構ま白と石と打たるが火とりた

ころ伎後の團鞆の傍よりあらうる。ト津井よりあらうる。ナガ九里余

いのうり又さらぶまらく鷗の境まはりのまはりのまはり

が家居十彩のあらう建つ元佳来あげく坂

見ええらうトシるあらうまらくとららうち

とうらうらうヨウソロウクの「キイとりのあらうるの

カラエるとらうの「あらうると

湯のあらうらうらうらうのあらうらうらうのあらうらうの

アリヤア湯のあらうらうらうのあらうらうのあらうらうの

さんぞうとらうらうのあらうらうのあらうらうのあらうらうの

備前国瑤伽山蓮華寺
自勝院之画

瑤伽山蓮華寺の境内に
六町ありて境内にありて
給事所地あり本在
陽伽大蔵院なり
自勝院ありて境内に
ありてありてありてあり



「コウ湯舟の」とらさんとのなるなる陽舟の「サ」

「やませ」まののハくぬのくゆふトゆふと

コウのうらむのへくコウヤコウヤ

「ひき」戸あらあるケニからぶる

「やませ」やませ「ラ」

「やませ」湯じぞ湯じぞ

「やませ」まてる人「ヤ」

「やませ」紙端のくさる紙端のくさる

まやませぬう。よろうやアしく。トけあひよるに。陽
かのまんどろをえうり

てあまの「イヤアそのでねめ。えんぢう乃 残おせ

ホのせんどう「おんのとぞや。どろめざと酒の残くん。あん

おんるげ アハナナのらせきくを。けるら

あまのめが「ナニやいと。こちうあてをうどもの子へる

と残ぬう。あるテヤ。おろが酒どくふひちうて。おれ

ハぢうどやろ。篠の四つ進つけるぞ。トあひのちやを

盗人「イヤアそちうら。湯あひのちやを

どもデヤ。うらが残もかけくおくとぬおろうん

とと志さるを。打さるせく。トあひをさるをかうあげと

あひこれ「ヤルクとるみる。でねのぞも

かくせく あひ「あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひ「あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

あひとらやもヤアイく。あひよく。ト

くらしやまち

ゆふぢいぢ

のかしよは「裏町」どさうとさく「拵女」をのめるよまはらふ
出「おしづ」女どもおどろけちよるのらびに「おのこ」

おどろけのさんせ。おのそびるさんせ。ト「おのこ」お八と
おんこてらるる

「おんこ」く「おんこ」おんこさんせ。ト「おのこ」お八と
おんこ

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。

おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。おんこさんせ。
おんこさんせ。



トシいつてややとこのよめでつるをなをなをつれてらんうらうら
田舎めたれどいふうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
くといふうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

野や。こらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

るんのものでや。うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

と。あてなへのよめよめ。まらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

意づやのこらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

けんうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ゆい休は本村ハハがあそび中もあそぶらうらうらうらうらうら
このうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
をまてなをなをな エイおはなをなをなをなをなをなをな
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

りうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

別今晩ハ身が女希。清姫も因着ハヤ。

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

おうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

おめへの女とあつらふが女らん。おんさりの足^{あし}を
 ぞつらふさう^{はげ}下^{くだ}を^{くだ}そそく^{くだ}何^なてあつら
 おのろ^{おの}とそれ^{それ}ふやアおまじが^{あま}婦^む聲^{こゑ}はまじら
 〜〜トは内^{うち}あぞぶ^ぶう^うあよそぞあま^{あま}。おあ^あさん^{さん}ら
 りふらふ^{りふ}はまが^まあまおつ^つや^や〜い^いなる^{なる}ま^ま〜[〜]
 ぞ〜^ぞ〜[〜]の^のぼ^ぼらん^{らん}が^がま^まの^のい^いら^ら
^{あま}死^しる^るさん^{さん}〜[〜]今^{いま}〜[〜]あ^あ〜[〜]い^いら^らな^な〜[〜]
^{あま}あ^あ〜[〜]ら^ら〜[〜]あ^あ〜[〜]ら^らの^の男^{おとこ}奴^{やつ}が^が〜[〜]ま

ソリヤア^{ソリ}ら^らら^らあ^あら^ら〜[〜]の^の〜[〜]おん^{おん}よ^よら^ら〜[〜]ん^ん〜[〜]
 ひ^ひ〜[〜]の^の〜[〜]ら^ら〜[〜]や^や〜[〜]か^か〜[〜]ら^ら〜[〜]て^て〜[〜]ん^ん
 の^のい^いて^てあ^あ〜[〜]ら^らの^のお^おあ^あ〜[〜]人^{ひと}出^でる^る
 子^こも^も〜[〜]が^が妹^{あね}ド^ド〜[〜]や^や〜[〜]か^か〜[〜]ら^ら〜[〜]下^{くだ}〜[〜]
 お^お〜[〜]んで^{んで}〜[〜]や^や〜[〜]ま^ま〜[〜]ら^ら〜[〜]の^の〜[〜]も^も〜[〜]
 あ^あ〜[〜]が^が移^{うつ}〜[〜]と^とあ^あ〜[〜]ら^ら〜[〜]マ^マ〜[〜]く^く〜[〜]あ^あ〜[〜]
 ぐ^ぐ〜[〜]ら^ら〜[〜]ん^ん〜[〜]は^は〜[〜]ら^ら〜[〜]ん^んが^が〜[〜]ま^ま〜[〜]らん^{らん}
 〜〜[〜]〜[〜]ら^ら〜[〜]ん^ん〜[〜]ま^ま〜[〜]〜[〜]



口此山よりとれしとちり花を
つらら木西武丁目出で
にたきまきし中まきまき
りせけいびあふくま
きりんのけいほりて大母
伊人ゆきかあひひき
まおとん

とことび
ヤ
みり
のね
春の籠
初音構
一柱



一雙
袋
益
あ
ま
あ
夾
ヤ



十返書

備後阿伏鬼
海潮山風景

塔上人ハ

子孫ハ

尺三寸ハ

刈取ナリ

かき母

ナリ

よち
よちの法



てごんしのドヤやるん。破場ヤタをとりとらんごん
 べや。あましくてごんしのドヤやる。コウヤやるく
 うららららてらさんヌスの死しまさんニ今
 うららづるのドヤやる。あまさんおごん
 とらへりあかあまのりつれバ男オトコをせりきりてあま
 かへりかへたは女メのおやうりてあまゆきとてあまらう。あまらう
 とらへて

塗立ヌリタテの胡ゴ移シ志シををのの人ヒト形カタも
 そらうくをけてまこハのハのハのハの

は物モノ奇キは船中フネナカまきくハハの航セウきんてうと
 笑エひを借カりてる。あましくはるをう返ヘ由ユとて
 船フネども帆ホを引ヒのげ揖ウチとて車クルマにハ陸チカを出イる
 船フネの船神フナカミのかとま。あましく遙トホ舞マウしと
 青アヲ華ハナ愛アイらるよふな依ヨ後ノチ仲ナカ
 岸キらら津ツむ林ハヤシのめぐま
 かくく船フネをちるうよ仲ナカあつよえんりの出イ茶チヤ家カ
 青アヲ飛トビ鳥トリのあまをうらまは阿ア伏フツ鬼キとりんとま

りる。爰は海潮山磐臺寺といふ寺あり。
其庭より廊下の礎道とのがまぶ。海岸の
又は祝喜の事のことるあり。海は常史の
業合のくくと修よるよ糸信しるよ。山の
尾崎海倉よのぞきとる又。常夜の燈籠
中の燈青堂より。えおろせば。白浪足元は浦
かろくと。月も眩さ。星の骨もかぬたむるよ。
石垣はさるがら棒の葉もも修く

光明のこゝとて阿伏鬼祝音

かいては雨より。年のひみ十米あまりの和尙
めたしるが。依の男よ豆ぐやうのりの。そのあり
まを拜極よ。兼芭るど。一着のより。せ宮修の
こゝのこまで。やりののつとそく。依ねとよよ。依て
假よ打撃せ。船と漕舟一つ。矢石。坂るそく。田の修
とのよよ。樵石。志るた。修るど。のよあ。つより。
修吹。島丸。龜石。服。島。よ。て。け。も。坂。撲。石。の。瀬。戸

とらふとぞ

舟ふねの堅横かたよこ島の瀬戸せとの舟ふね

かたよこの糸いとよとむとむの糸いと良よし

宮崎参詣藤栄元上ノ巻終

早稲田大学図書館

011688991791